

平成29年5月8日～5月14日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について（平成29年度第2報）

1. この期間（5月8日～5月14日）の全国の暑さ指数（注1）の観測状況について

この期間の6都市（*）の日最高WBGTの平均値は概ね過去5年間の平均に比べ高い状態となりました。

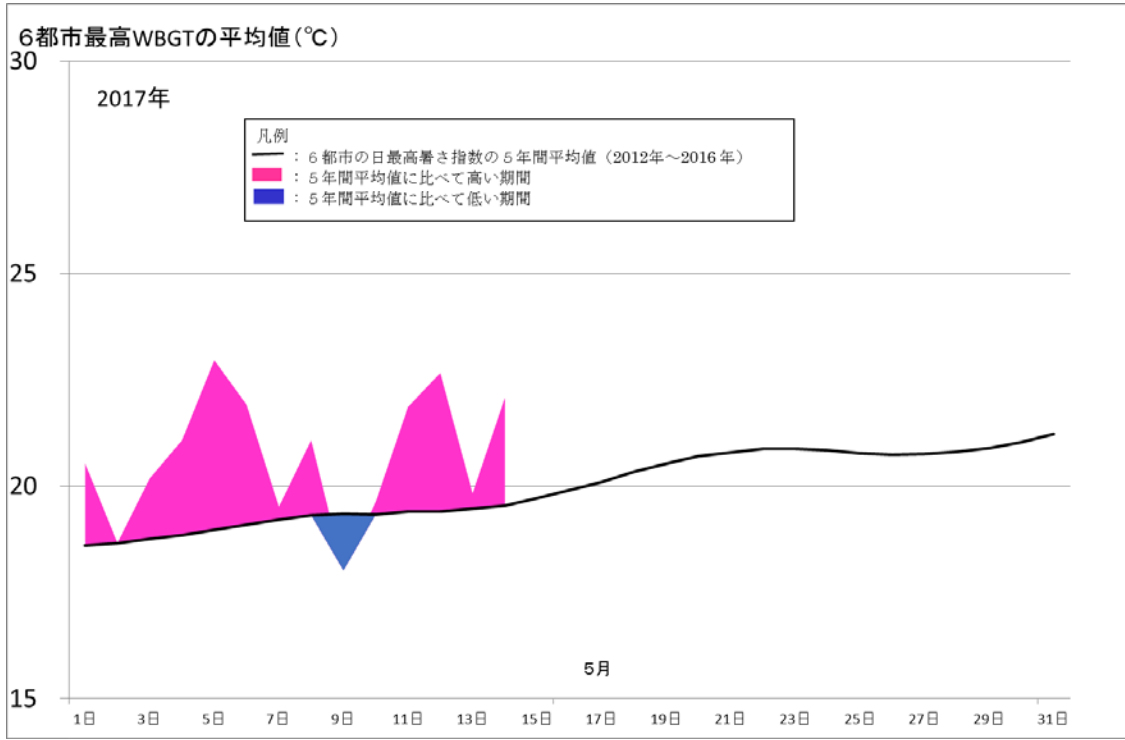


図 1-a 全国の暑さの動向の過去5年間の平均との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

表 1-a 全国9都市の毎日の最高暑さ指数（5月8日～5月14日）

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	6都市平均
8	11.2	18.9	23.9	21.2	18.5	20.7	20.9	21.3	22.5	21.1
9	15.5	14.3	18.4	19.6	15.9	18.7	17.5	18.0	19.4	18.0
10	15.0	17.2	18.6	18.0	18.6	23.3	19.1	20.2	19.9	19.6
11	16.1	18.3	23.7	21.9	17.4	21.1	22.3	24.8	24.3	21.9
12	17.9	19.5	24.7	23.5	22.0	23.6	21.6	20.6	23.3	22.7
13	12.8	13.5	18.8	17.4	18.3	20.5	21.8	22.2	24.6	19.8
14	8.7	14.5	19.1	23.1	22.2	23.2	22.4	22.5	24.7	22.1

表 1-b 全国9都市の1週間（5月8日～5月14日）の暑さ指数超過時間数

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島
31°C以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28°C以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25°C以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（注1）9都市の暑さ指数は、環境省の黒球温度観測資料と気象庁の観測資料から推定した値です。暑さ指数については参考資料をご覧ください。

2. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

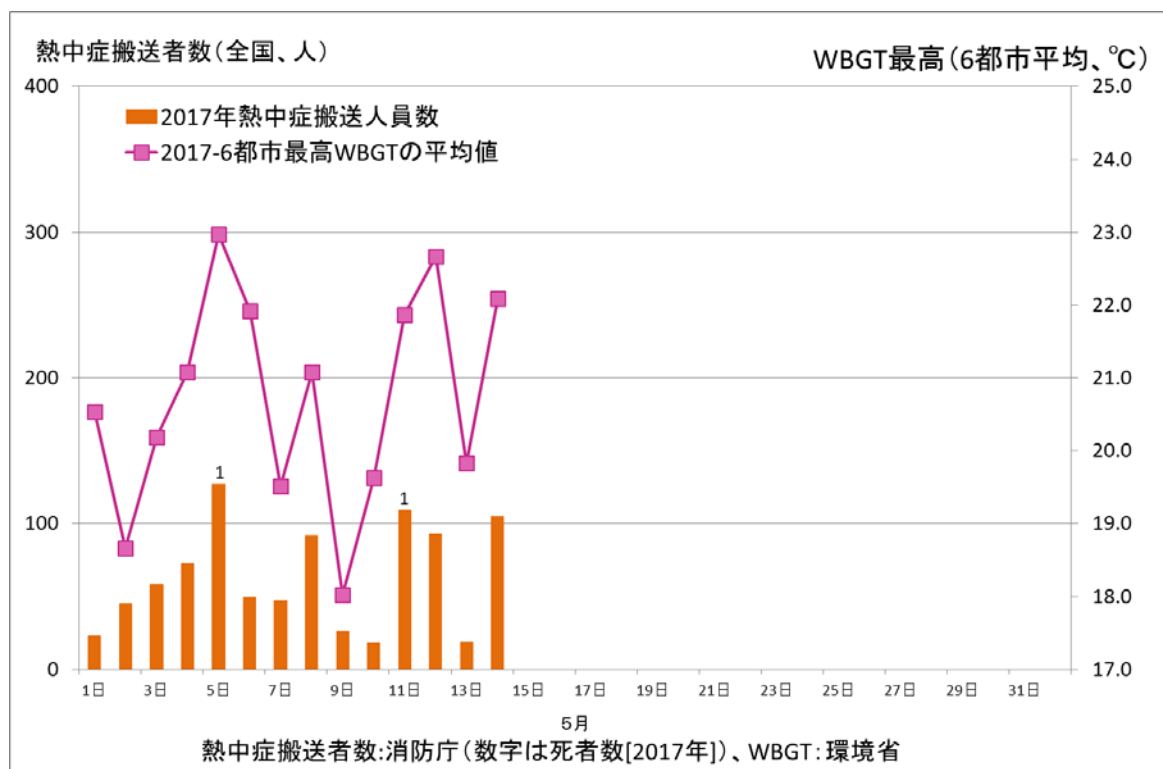


図2-a 6都市の日最高WBGTと熱中症搬送者数の推移

- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)について、5月9日が19°C以下で過去5年の平均値を下回った以外は、5月以降は平均値より高い状態が続いています(図1-a参照)。消防庁発表の速報によると、熱中症による救急搬送者数は、11日、14日は各100人を、1週間では400人を超え、11日には1名死亡がありました。
- 全国では、沖縄県や鹿児島県奄美地方で、熱中症危険度の「厳重警戒」を示す28°C以上なった地点があり、また九州では「警戒」を示す25°C以上となる地点がありました。暑さ指数(WBGT)はこの時期としては高めの値となっており、全国的に熱中症に警戒が必要です。

3. 今後の見通しと注意点

- 熱中症予防情報サイトによると、明後日(19日)は、関東以西の一部では暑さ指数(WBGT)が25°Cを超える地域があり、さらに、気象庁発表(5月17日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温ともに、全国的に平年並か平年より高く、期間の中頃にかけて平年よりかなり高い所があるでしょう。」となっており全国的に熱中症への十分な警戒が必要です。
- これから湿度が高く、晴れた日には気温も高く蒸し暑くなることが予想されます。天気予報などを参考に、特に高温になる日には、無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意してください。

(参考)

「暑さ指数」について

熱中症を引き起こす条件として「環境」は重要ですが、我が国の夏のように蒸し暑い状態では、気温だけでは暑さは評価できません。熱中症に関連する、気温、湿度、日射・輻射、風の要素を積極的に取り入れた指標として、暑さ指数(WBGT: Wet-bulb Globe Temperature: 湿球黒球温度)があり、特に高温環境の指標として労働や運動時の予防措置に用いられています。

暑さ指数を用いた指針としては、日本体育協会による「熱中症予防運動指針」日本気象学会による「日常生活における熱中症予防指針」があり、暑さ指数に応じて表1-1に示す注意事項が示されています。また、夏期には、全国約840地点の暑さ指数の実況値・実況推定値や予測値が「環境省熱中症予防情報サイト」(<http://www.wbgt.env.go.jp/>)で公開されています。また、市民マラソンにおける指針については、Hughson(カナダ)による指針が提案され、アメリカやカナダで用いられています。

暑さ指数について

● 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31°C※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C※)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する 危険性がある。

※ (28~31°C) 及び (25~28°C) については、それぞれ28°C以上31°C未満、25°C以上28°C未満を示します。
日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より